

【Photo Album & スライド動画】

2018.6月 梅雨の晴れ間 久しぶりに 東六甲を歩く【1】

六甲高山植物園より 六甲最高峰を経て 緑に埋まる住吉谷を下る 2018.6.14.

1. ニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園
2. 六甲山上の縦走路を東へ山上散策 六甲山最高峰へ
3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ最もポピュラーな六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



私の一番好きな六甲 武庫川から眺める東六甲の姿  
小さな時から、私の慣れ親しんだ景色でもある

尼崎と西宮の境を流れ下る武庫川土手から眺める東六甲 右端にこんもり甲山が見える

須磨海岸から宝塚に至る全 55~56 キロに約 50 の山が連なる六甲連山。最高峰は六甲山 (931.25m) 須磨からは山並みが重なり、六甲山頂など東六甲の山々はよく見えない。でも、子供の時から尼崎に住んでいた私にとって、朝夕眺める東六甲の山並みはポピュラーな山並み。

六甲山上の峰に見える鉄塔群・ユニークな姿の甲山／おたふく山・表六甲のいくつかの谷筋。通った学校の校歌にも読みこまれ、須磨に移ってからも、電車に乗ると車窓から山並みを探す。健康 walk にいつも足をむける須磨の六甲縦走路でも やっぱり遠く東六甲の山並みや阪神間の街の景色を探す。 本当によくなれ親しんだ山々である。

晴れ渡った梅雨の合間 西六甲鉄拐山から東に延びる六甲連山とその一番後ろ遠くに隠れて、山裾だけが見える東六甲の山々を遠望する。

「本当に長いこと東六甲の六甲最高峰・住吉谷山裾だけが見えているお多福山・甲山にも登っていない。今どないなっているのだから……」と好奇の虫が騒ぐ。

かつて よくハイキングに出かけた場所ではあるが、住宅地として大きく変貌した阪神間六甲の山腹。色々話は聞くが……と興味深々。この梅雨の晴れ間 電車にえば1時間もかからず麓に行けるので、毎日の健康 walk に東六甲へも足を延ばそう。



西六甲 高取山から眺める六甲連山の山並み



西六甲の麓 鉄拐山から眺める六甲連山の山並み

もう10数年足を踏み入っていない東六甲。

一番行きたいのは住吉川の谷筋の古道とその上に聳える六甲山最高峰とおたふく山。そこから眺める阪神間の市街地 大阪湾

沿岸の大パノラマ。いつも見えない尼崎周辺 甲子園はみえるだろうか？

そして最後は遠足でよく行った奥池・甲山とすぐにコースが頭に浮かぶ。

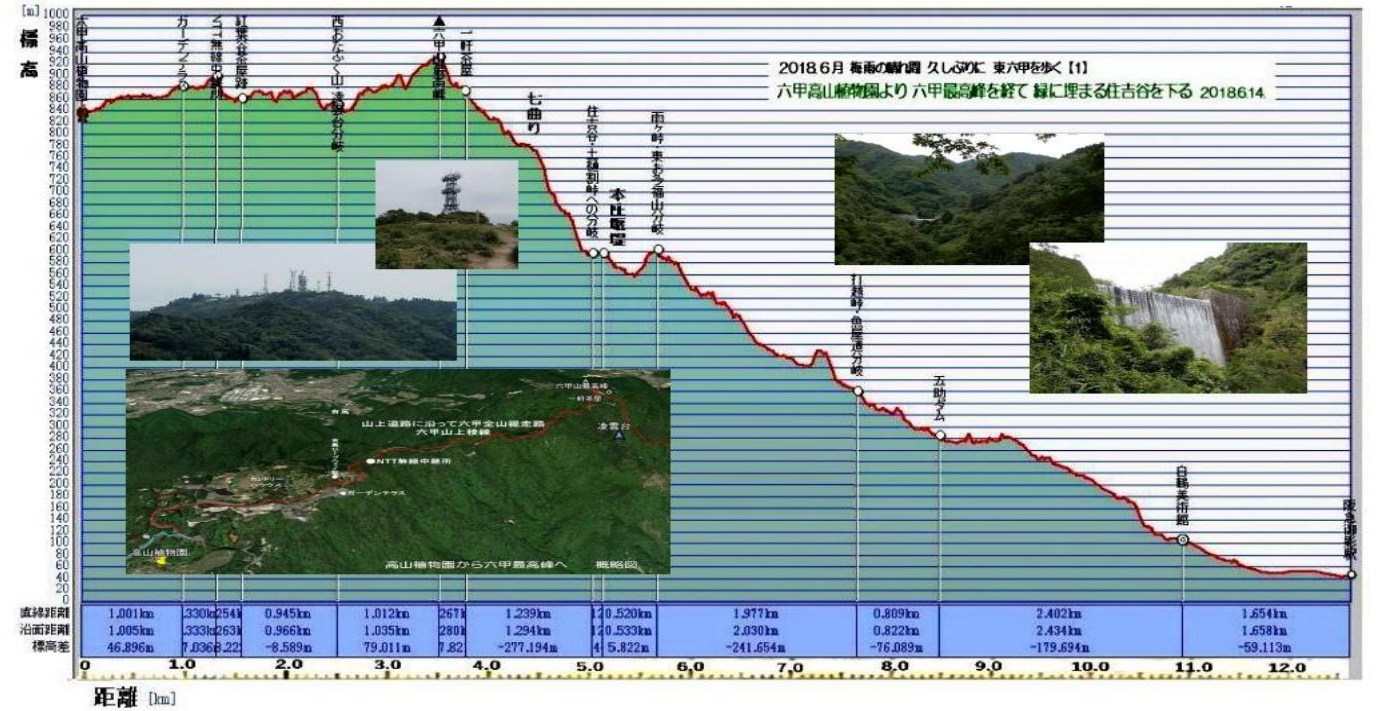
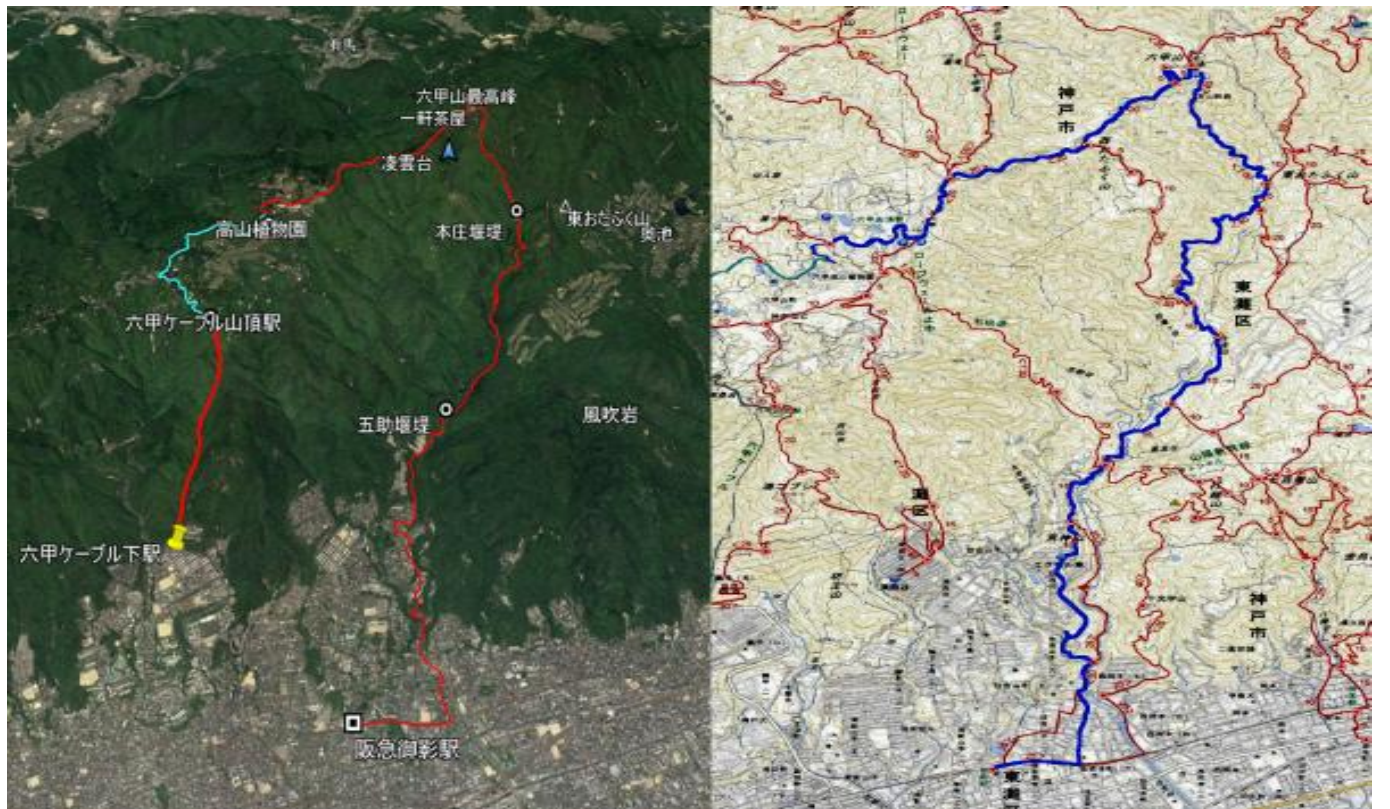
開発が進み、登山道も整備されているが、気になるのはアプローチの長いきつい山道が続く住吉谷。歳を考えるとアプローチの長い急な住吉川を登るのはちょっとしんどい。東六甲の道も随分変わっているだろう。まずは様子見と。

6月14日梅雨晴れの朝 ケーブルで六甲山上へ・

毎年この時期行く高山植物園の花を見て、山上の縦走路を東へ 山上散策 六甲最高峰を経てへ住吉谷 六甲越一軒茶屋から住吉谷の古道 魚屋道・住吉道を下って 東神戸の御影へ下ることに。一番のポピュラーなコース。

梅雨の晴れ間 6月14日朝 期待を膨らませつつ、六甲ケーブルで六甲山上へ

六甲高山植物園より六甲最高峰を経て 久しぶりに住吉谷を下る 2018. 6. 14.  
 1. ニッコウキスゲの咲く 六甲高山植物園  
 2. 六甲山上を東へ歩いて 六甲山最高峰へ  
 3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



# 1. 初夏の高山植物やニッコウキスゲの咲く六甲高山植物園

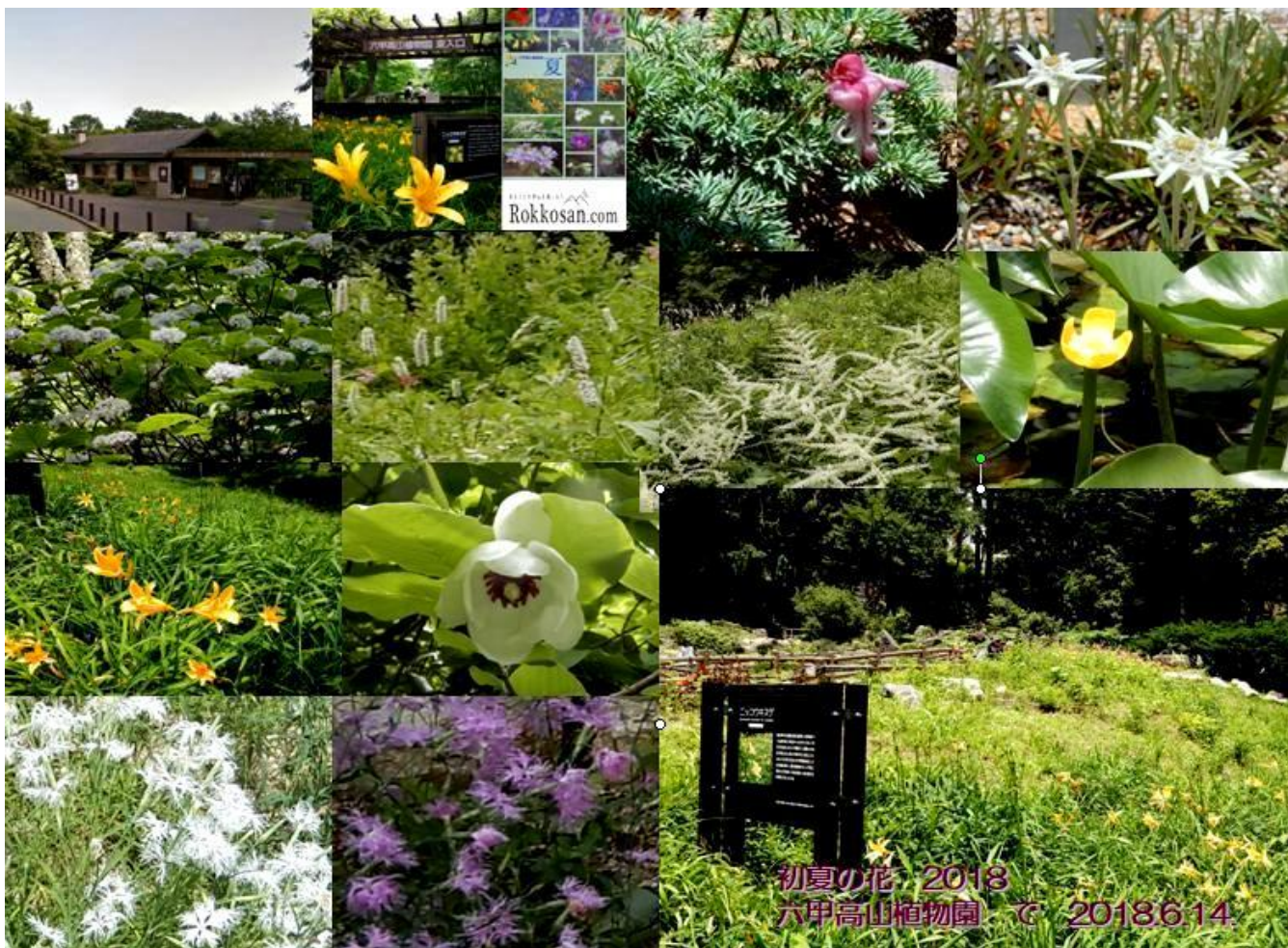


6月の月上旬青いケシやクリンソウなどに合わせ、毎年六甲高山植物園に咲く高山植物を見に出かけるのですが、今年はお出遅れ。ただでさえ温暖化が進む中 ニッコウキスゲが今満開と聞きましたか??  
いつも楽しみにしている駒草・エーデルワイス・オオヤマレンゲなどはまだ咲いているだろうか?  
あまり期待はせずに……  
お目当てはニッコウキスゲ。  
でも駒草やオオヤマレンゲにもぜひ出会いたいと期待一杯。  
六甲高山植物園東門より入る。



左: ニッコウキスゲが咲き始めた湿地 右: 初夏の高山植物が咲く岩山 2018.6.14. 六甲高山植物園で

# 六甲高山植物園 2018年6月 花のアルバム



東門への丘の斜面の草むらにはイブキトラノオやオオヤマブキショウマなど梅雨時を彩る山野草が一杯。今年も六甲に咲く初夏の数々の高山植物 ニッコウキスゲのほかコマクサやエーデルワイスなど高山植物や梅雨時の山野草に出会えました。以外にも まだ水辺にクリンソウも残っていて、うれしいオウヤマレンゲにも出会えて、満足感一杯で東門へ向かう。

それにしても すごい速さで過ぎゆく季節 地球環境の変化をここでも感じました。  
 六甲高山植物園 東門へ向かう丘で 2018.6.14.



## 2. 六甲山上の六甲全山縦走路を東へ六甲山最高峰へ



12:30 六甲高山植物園東門前から六甲山最高峰へ向かって東へ山上 walk。

最高峰は六甲山上の一番東端に聳えるため、山上へ上がってもいつもパスして久しぶり。でも今回は須磨からみえぬ東六甲・大阪湾の大展望。その期待で一杯。山上散策も久しぶり。紫陽花は咲き始めのようですが、いつも見上げる六甲稜線の鉄群にも今日はパスせずゆっくりと。

新緑に包まれた山上散策に期待がふくらむ。

六甲の全山縦走路は山上でドライブウェイと何度か 交差しながら、ほぼ並行して東六甲へ伸びる。六甲高山植物園前のドライブウェイの坂道をカントリーハウスを通過して、ガーデンテラス前まで歩いて、六甲全山縦走路に入る。

今日は平日なので車がすくなく、この山上道路をそのまま六甲最高峰下の一軒茶屋前まで行けるが、ガーデンテラス前から静かな緑に包まれた登山道に入る





ガーデンテラスから縦走路に入り、六甲山最高峰へ 2018.6.14. 12:45



ガーデンテラスの横から縦走路に入ると稜線の南側 山肌に沿って東へ進む。パッと前方に視界が開け、阪神間の海岸部の大遠望。また前方にNTT 無線中継所の電波塔がみえる。

下からいつもみえるガーデンテラス・有馬ケーブルの鉄塔群と一緒に見えている電波塔だ。



奥池 さらに阪神間 海岸部まで広がる西宮・尼崎の市街が見えている  
2018.6.14 六甲山上 ガーデンテラス東の六甲全山縦走路 NTT無線中継所電波塔周辺より





電波塔がそれぞれの頂上にある 左:六甲山最高峰 右:西おたふく山の頂上が見えている 2018.6.14.



西おたふく山の尾根の向こうに奥池 さらに阪神間 西宮・尼崎の市街が見えている  
2018.6.14. 六甲山上 ガーデンテラス東 の六甲全山縦走路 電波塔周辺より

北六甲と呼ばれるNTT 無線中継所周辺縦走路は大阪平野を見渡す絶好の展望所。神戸の港に続く阪神港がくっきりと。中継所を北へ回り込んで稜線へ。山上へ出たところが広がっていて標識があり、山上道路を渡り、ここが、北へ有馬へ紅葉谷を下る地図に極楽茶屋跡と記された有馬入口であるとわかった。

また、眺めてきた谷が住吉谷・大月地獄谷と並び堰堤が多数並ぶ急峻な谷筋。滝と堰堤が続く表六甲治水・治山の要 水晶谷・西滝ヶ谷の谷筋で、西おたふく山を間に「住吉谷」の一つ手前の谷と知れた。



ガーデナラスのすぐ東の縦走路 南側展望が素晴らしい北六甲 NTT無線中継所周辺 2018.6.14.12:50



六甲山と尾根の森の中 南側の展望が抜群 全山縦走路を東の六甲最高峰へ 2018.6.14.



ドライブウェイを北へ回り有馬へ下る有馬紅葉谷入口 13:03  
折り返しドライブウェイの路肩を少し寄り回って、北へ来た時の中へ

ここから全山縦走路は稜線の北側へ移り、また緑の林の中を次は凌雲台・西おたふく山への別れへ。雨上がりの晴れ間 本当に清々しく心地よい。道は北側からまた、南へ巻いて、また山上道路をクロスして、南側凌雲台への道へ。南に西お多福山頂上 凌雲台にある電波塔が見えている。六甲山上稜線の南側はまさに阪神間の電波塔の銀座である。



紅葉谷入口からドライブウェイの山頂へ、ドライブウェイをクロスして  
東側折り返し路肩から六甲山最高峰へ戻り 2018.6.14.



六甲全山縦走路 六甲山上 凌雲台・西おたふく山へ 2018.6.14.14:00



まもなく南の凌雲台へ向かう舗装道路とクロスして東へ向かうと六甲最高峰も近い。

でも中々六甲最高峰は見え、相変わらず緑の中を上り下りを繰り返しつつ、また、北側の林の中へ。

クロスした山上道路のわきには北区と東灘区の境の区分標識が見える。



林の中、上り下りを繰り返す中、前方の木々の間から、最高峰の頂上にある電波塔がちらっと見える。

この林を抜ければ、六甲最高峰である。







いよいよ六甲最高峰への登りにとびつく 2018.6.14. 13:31



樹木の蔭から稜線北側の景色を垣間見ながら、少し林の中を登ると視界が開け、最高峰の広い山頂部の南端に飛びだすT字路【1】 2018.6.14. 13:35

また、山上道路とクロスして階段道を登れば、いよいよ六甲最高峰の頂上だ。

樹木の間から稜線北側の景色を垣間見ながら、少し林の中を登ると視界が開け、ひょいと最高峰の広い山頂部の南端に飛びだす。南側の山上道路から登ってきた広い道とのT字路に。ここを左へ折れて少し進めば頂上だ。

北に頂上脇にある最高峰の目印 電波塔が見え、反対側には南東に広がる大阪湾沿岸大阪平野の大パノラマが広がっている。まずは頂上へ行って、早くこの大展望を楽しみたい。



樹木の間から稜線北側の景色を垣間見ながら、少し林の中を登ると視界が開け、最高峰の広い山頂部の南端に飛びだすT字路【2】 2018.6.14. 13:35  
Dorive wayから登ってきた道を右、北側へ歩けば山頂、南には眼下に広がる大阪平野が遠望される。いつから、ここへ登って来ていないのだろうか.....



六甲山最高峰頂上へ、北への最後の緩やかな登山道 2018.6.14.



六甲山最高峰頂上 2018.6.14. 13:38  
高山植物園から約1時間の山上walkで、遮るもののない360度の大展望

高山植物園から約1時間の山上walkで、六甲山最高峰頂上に到着。遮るもののない360度の大展望が開けている。もう数十年ぶり。下から六甲山上の電波塔を探すことはあっても、ほとんど六甲最高峰の記憶はかすかに。こんな風になっているんだ。また、山上バスもなく、山上の東端までは遠いと思っていましたが、山上から約1時間でこれる距離なんだとびっくり。しかも下界の喧騒から離れ、心地よい緑に包まれた林の中をいつも見上げる稜線の鉄塔群を巡り、そして眼下に広がる大パノラマを楽しみながらの三城散策で六甲山山頂に。

2018.6.14. 13:38 標高931m 六甲頂上到着です



山頂標識の北側から六甲最高峰の頂上部を眺める 2018.6.14.



六甲山山頂部のGoogle Earth 画像

山頂S字交差点から登山道へ  
DIVE WAYの案内看板

一軒茶屋

電波塔

▲  
六甲山最高峰

山上drive way  
県道16号

至六甲ケーブル・高山  
植物園ほか 六甲山上



山を歩いて登ると見られる山頂部。六甲最高峰の山頂部には、電波塔や登山道などの施設が点在している。六甲最高峰は、山頂部から眺望できる。 2018.6.14.



六甲山 眺望。六甲山山頂部から眺望できる。六甲最高峰は、山頂部から眺望できる。 2018.6.14.



六甲山山頂部から眺望できる。六甲最高峰は、山頂部から眺望できる。 2018.6.14.



下道しを歩くと見られる山頂部。六甲最高峰は、山頂部から眺望できる。 2018.6.14.



電波塔のある山頂部から眺望できる。六甲最高峰は、山頂部から眺望できる。 2018.6.14. 山の北東より



六甲最高峰山頂部から眺望できる。六甲最高峰は、山頂部から眺望できる。 2018.6.14.



左の生駒山を背に広がる大阪平野 中央緑の帯が武庫川 右には西宮・尼崎の港 手前中央に芦屋奥池の街



六甲最高峰から眺める大阪平野 2018.6.14.

生駒山

(生駒山から南へなだらかに伸びる生駒連山)  
(大阪のビル群を背景に 南北に流れる淀川の流れ)

玉江橋 阪神尼崎駅

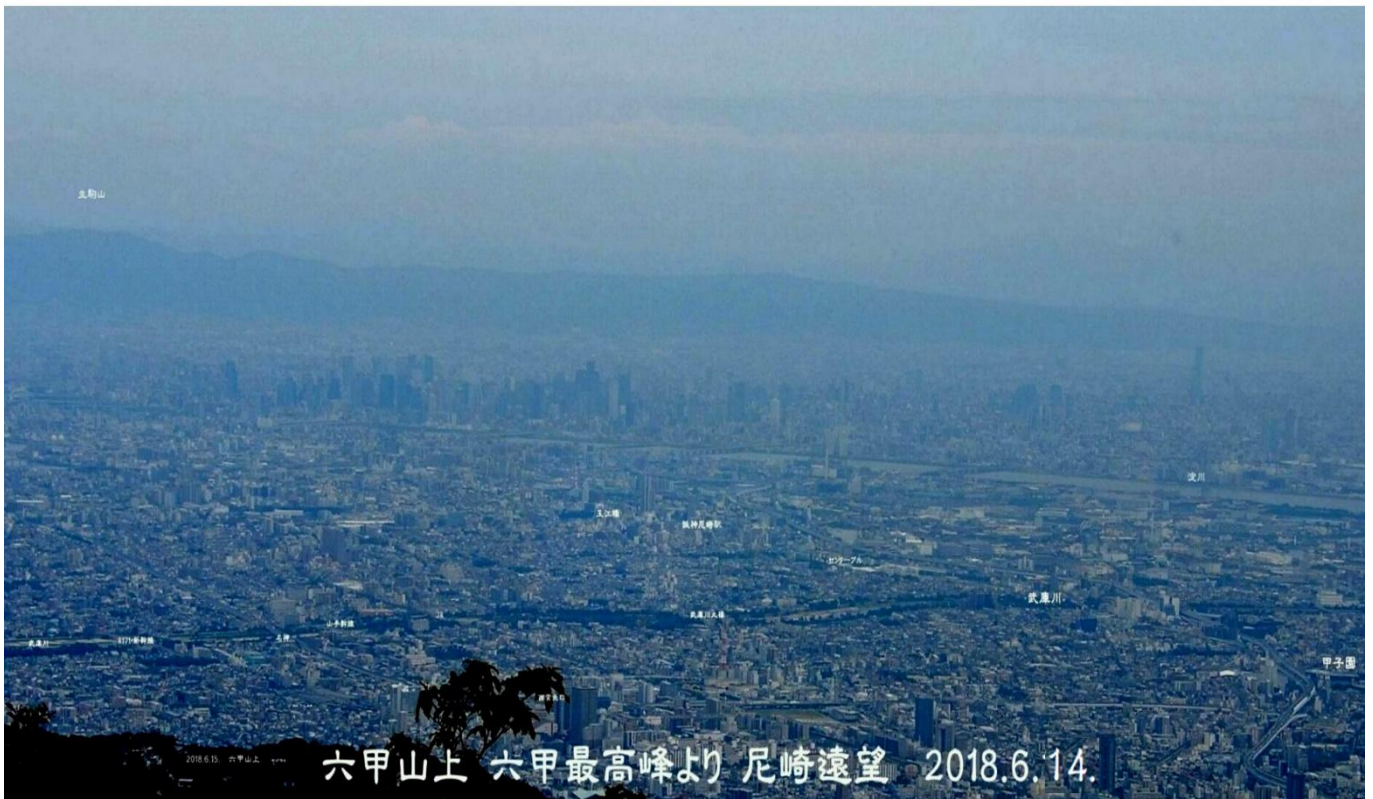
R171・新幹線 名神 山手幹線

(緑のベルト・武庫川)

R2・武庫川大橋

(緑のベルト・武庫川)

甲子園



### 六甲山最高峰から眺める南東側 阪神間の街中に故郷尼崎を探す

大阪の街のビル群・淀川を背に ○印が阪神尼崎・玉江橋周辺 目印白いアルカイクホテル・

総合文化センターのビルが見える。 その左が阪神尼崎周辺? 尼崎城がみえていた感じがする楽しみにしていた

大阪湾沿岸東部 尼崎の街や大阪のビル群がぼんやりながら遠望できました。また、今再建中の尼崎の城も・・・

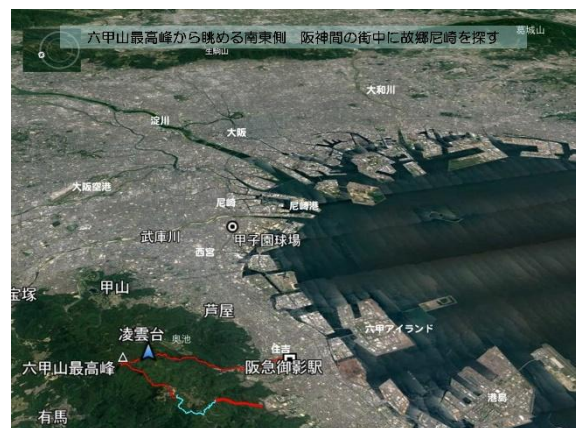
長いことゆかなかった六甲山最高峰が こんなにきれいに整備され、約1時間の山上散歩で訪れられたのにもびっくり。

また、いつも遠く遠望する六甲稜線に見える鉄塔・電波塔にしっかり出会えたのも収穫。

新鮮でうれしい六甲山上 緑のWalkになりました。

帰りは 南すぐ下のドライブウェイの一軒茶屋に出て、久しぶりに古い六甲越えの道 住吉谷を降る。

こちらも、もう10年以上上ったことなし。 長い下りのウオークになるが、興味深々で最高峰を後にする。



### 3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ最もポピュラーな六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



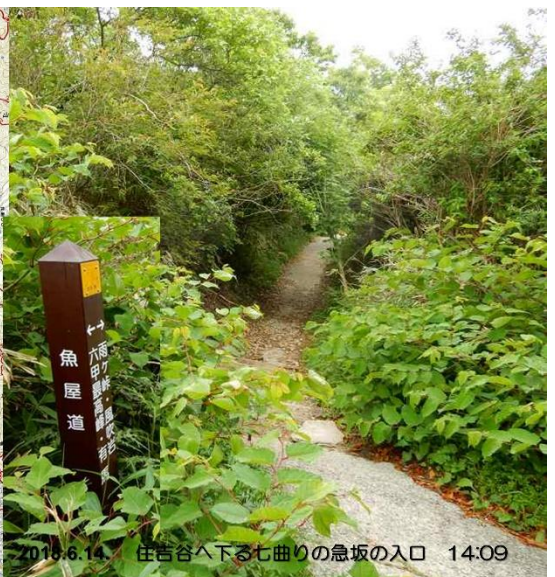
14:00 最高峰での展望を楽しんだ満足感一杯で、山頂をあとにする。帰りは予定通り、すぐ下の一軒茶屋におり、そこから裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越 住吉谷を下る古道「魚屋道・住吉道」を御影へ。下り始めてすぐ下 六甲越 一軒茶屋。ここから北へ越えれば有馬へつながる六甲越魚屋道。南へ下れば住吉谷。建物の南側に一軒茶屋の碑があり、この南が住吉谷へ降りてゆく古道「住吉道(魚屋道)」の下り口である。



ここから七曲りの急な坂道を一機に住吉谷の谷筋に入り、住吉川が流れ下る左岸につけられた登山道を下る。

表六甲の川は六甲から海まで短い距離の谷筋を一機に流れ下る急峻な暴れ川で、幾多の災害をひきおこしてきた。その中で長年にわたる植林と数多くの堰堤が築かれ、今も続く長年にわたる六甲の治水・治山の要なのが住吉谷である。

その中心にある本庄堰堤・五助堰堤。植林が行われて間もない荒れた谷筋の記憶が薄っすらあるのみですが、本庄堰堤・五助ダムの名前はしっかりと。今どうなっているのか、地図と記憶を辿りつつ、興味深々で七曲りの坂道を下ってゆく。





2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂



2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂  
山上から眺める山に咲いている花のつぼみ。急な下り道が続く



2018.6.18. 住吉谷へくだる七曲りの急坂  
遠くに谷越しに西おたふく山の電波塔が見える

14:20



住吉道から眺める住吉谷  
右手に本庄堰堤がちらっと見えるが、この左 緑の中に本庄橋跡がある 14:32

七曲りの急坂を下り終わるとすぐ南に本庄堰堤がある住吉谷の底。道標が谷側が流れる傍らに道標がある登山道の分岐点。上流側へ谷を詰めると六甲山上の石の宝殿や谷の奥で右手へ土樋割峠を越えると奥池・東お多福山へゆける。また、住吉道(魚屋道)は谷川を渡り、右へ住吉川左



岸に沿って住吉谷を下る。谷を渡る下流側には本庄堰堤がちらっと見えている。

芦有道路奥池を登り口にすれば、アプローチが短く、六甲山上や東お多福山そして住吉川下降など容易になることから、この地点は六甲登山の人気ポイントだと聞く。ここから住吉川沿い左岸を下るとまもなく、本庄堰堤のすぐ横に出る。



本庄堰堤を眺めながら横を通過、東おたふく山の山腹沿いを降る 14:38  
かつての鼻川、住吉川、砂防工事が行われ、いくつも堰堤が作られている

**川で起こった災害**

六甲山は、東は武蔵川も西山麓から六甲山・豊野山・高尾山などの山並みを繋ぐ。西は鎌倉山までの、東西に約30km、南北に約10kmの山地で、大部分を風化した花崗岩で覆われています。風化した花崗岩は、大雨・長雨により崩れやすく、これまでに多くの土砂災害を起こしました。

昭和13年7月8日に発生した阪神大水害では、下流域の約500万tの土砂が降り、多くの人命や財産を失いました。

激甚雨より下流を襲む  
住吉川に流れて来た巨岩  
国道住吉村付近を襲む  
住吉小学校第二校舎を襲む

**国土交通省 六甲砂防事務所**  
住所：〒658-0032 神戸市東灘区住吉東町3-13-15  
電話：078-461-0535

**六甲の川物語**

六甲山麓の自然の歴史、文化にまつわる自然の話題や最新情報を盛り込んだ「六甲の川物語」のホームページ「六甲の川物語」が公開されています。ぜひご覧ください。

六甲の川物語「六甲の川物語」が公開されています。

凡例  
● 治山ダム  
● 河川  
● ハイキングコース  
● 避難所  
● 観音堂



激しく浸食が続いている六甲山には、階段的に数多く治山ダムをつくる必要があります。過去に何度も、激しい豪雨に耐えきれなくなった山が崩れ、土砂流となって街を襲いました。中でも、700人を越える死者・行方不明者を出した昭和13年災害、100人を越える死者・行方不明者を出した昭和42年災害は、近年で特に大きく、街に壊滅的な被害を与えました。



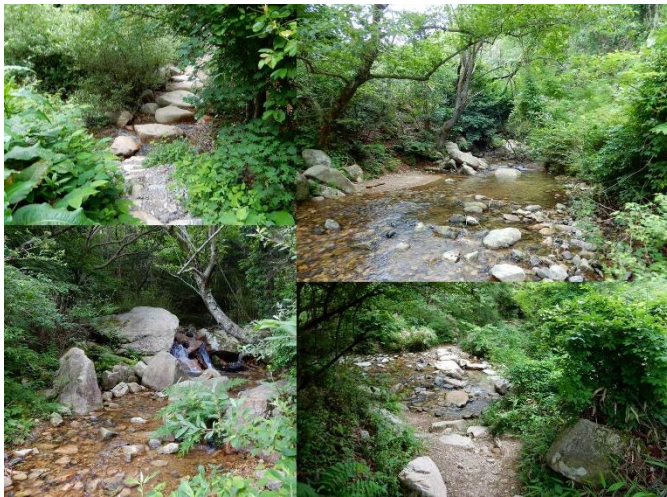
**治山ダムの役割**

一つは、谷から極端に砂礫が流れないようにくい止めて、浸食を防止することです。不安定な山の斜面が大雨で土石流化し、災害を引き起こすのを防ぐと共に、森の土が流れないようにすることにより、樹木の根の成長を促します。根がネットのようにはりめぐらされ、杭のように地面に刺さっていけば、山が崩れるのを防ぐ力がさらに発揮されるようになります。

もう一つは、治山ダムの裏に貯まった土砂と土砂の隙間に、雨水を貯えることです。土の中の微生物や昆虫、植物等が生きていくための大切な水を、ゆっくり下流に流すことにより、溪流から水が潤れるのを防ぎ、乾燥した時期にも供給することができます。また、大雨が降っても、いっきに水が流出することを抑えて、洪水を調節する機能も持っています。(インターネットより)

六甲山は、激しい地震を伴いながら、断層のずれを繰り返した結果出来上がった山で、地下深くまでズブズブに割れ、激しく風化しています。このため、過去に幾度も大きな災害が引き起こされました。明治の頃、乱伐によって裸地であった六甲山は、治山事業等による緑化工事の結果、現在の緑の豊かな美しい山に蘇りました。しかし、植物が育つうえで、その土壌は未熟で極めて薄く、雨が降るとすぐ流されてしまうのが現状です。また、雨は下方に一気にしみ込んでしまう地質のため、水を蓄える力もほとんどありません。樹木の根が生え、災害に強く、土の層が水を蓄える力を十分持つようになるためには、何百年の歳月をさらに必要とし、今も緑の回復に全力で取り組まれている。





本庄堰堤を過ぎて、上ったり下ったり東お多福山の山腹を巻きながら住吉谷を下る周囲の緑のトンネルが美しい。かつては丸裸になって、荒れはてた住吉谷のイメージがあるのですが、長年にわたる治水・治山事業で、今は見事に緑が復活している。

まもなく、東お多福山麓の奥に登って、本庄第三堰堤を高巻きして回り込んだところで、雨ヶ峠からお多福山・芦屋川への分岐の道標。

かつての魚屋道はここから雨ヶ峠を越えて、風吹岩の尾根筋を下って、東灘の海岸 深江へくだる。

一方、住吉道はそのまま谷筋を下ってゆく。



緑に埋まった住吉谷中心部 2018.6.14. 14:52

雨ヶ峠分岐周辺からは 今下ってきた住吉谷の中央にどっかと座った本庄堰堤がみえ、後ろに六甲稜線の山並みが見えている

大雨の時に一機に急流を流れ下る水流・土石流を食い止めるため、上流から下流へ何段にもわたって堰堤が築かれた住吉川流域。大災害と治水・治山の闘いが今も続いている。



雨ヶ峠へ登る道がここにもある 14:56



雨ヶ峠分岐を過ぎて また住吉道は谷筋へ下って 住吉谷左岸を五助ダムへと下ってゆく。ここでも住吉谷に築かれた堰堤がみえる



東おたらく山 雨ヶ峠への分岐を過ぎ、五助ダムへ下る住吉道 2018.6.14 15:00



住吉道 左岸道 五助ダムの手前で 2018.6.14 15:04  
ここから道は東おたらく山の集落から谷へと下ってゆく



雨ヶ峠への分岐を過ぎ、五助ダムへと下る住吉道 2018.6.14.  
ここでも、すぐ下の谷に住吉川に作られた堰堤が見え、急流住吉川の土石流のこわさがわかる



住吉道 左岸道 五助ダムへの下りで 2018.6.14 15:10



住吉道 住吉川 左岸道 五助ダムの手前 谷底に降りて 2018.6.14.  
少し並行して進むが、また山の巻道に



住吉道 住吉川 左岸道 五助ダムの手前 谷底に降りて 2018.6.14.  
少し並行して進むが、また山の巻道に





谷から山腹に沿って林の中に入る 15:21

谷から山腹に沿って林の中の高巻道になるが、崩落で行く手をはばまれ、さらに山腹を巻いてゆく。住吉谷ではこんな谷筋の崩落による道の整備が今も続いている。

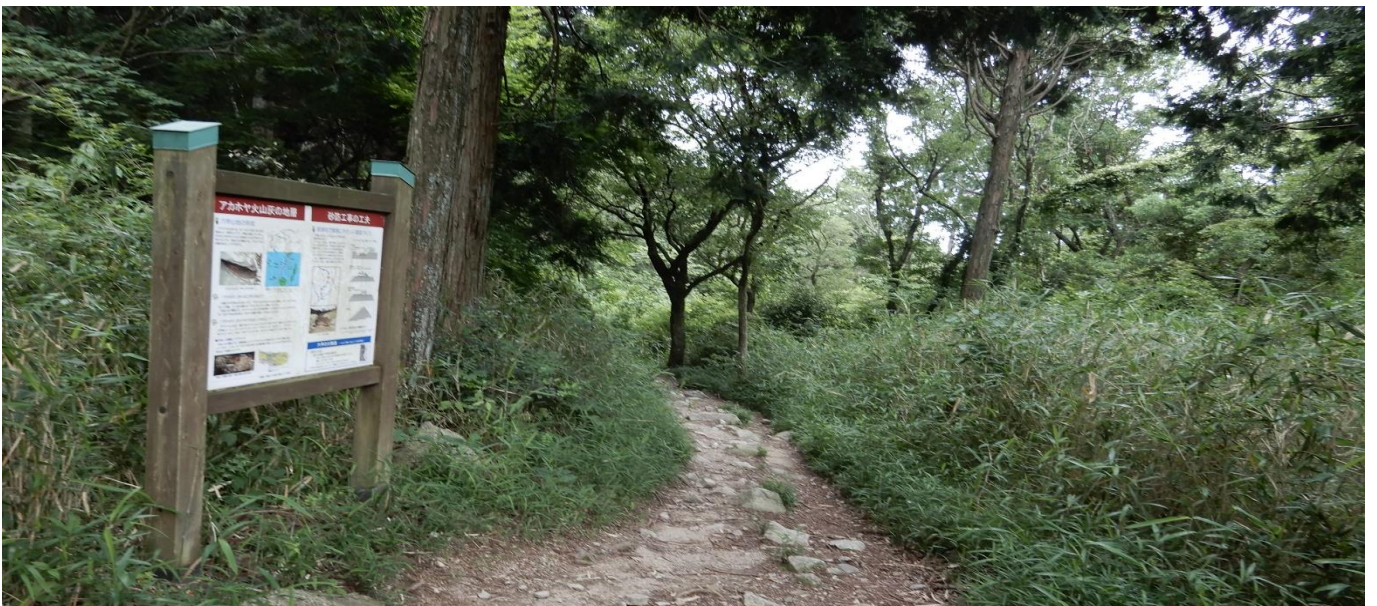
高巻きの林の中を通り抜け、谷筋に出るととばっと明るくなって 周囲が見通せ、谷の下へ降りてゆく。地図によればまもなく打越山への分岐である。振り返ると住吉谷の奥に六甲最高峰の頂上に目印の電波塔が遠く見え、随分下ったことがよくわかる。

突然 住吉谷の治水・治山の案内板が道脇に立っているところから、急に道が石畳になり、びっくり。むかしの古道の石畳道の名残か？。

この石畳道を少し下った傍らに打越山への分岐の道標があり、打越山への分岐地点と知れる。



住吉道 五助ダムの手前 打越山への分岐近く 谷の奥に六甲最高峰の塔か？ 15:24





住吉道 住吉川左岸道 打越峠分岐 ここで 魚屋道は左へ  
住吉道はそのまま谷沿いを下る 古道の雰囲気そのまま残る石畳道 1534

また、先ほどの住吉谷の治水・治山の案内板には六甲山地のくずれやすく脆い地質 そしてそこを急流となって流れ下る川の治水堰の工夫について記載されていました。

## アカホヤ火山灰の地層

### 六甲山地の形成

アカホヤ火山灰とは、約7,300年前に南九州の海老火山（鹿野カルデラ）が噴出活動したときに、日本全土をおおおうくらい広範囲に火山灰が降ってきたものです。西海ヶ谷の露頭では、アカホヤ火山灰層を見ることが出来ます。

アカホヤ火山灰（平成18年の様子）

鹿野カルデラの位置（赤丸：町田伊予、1976）  
火山フロント線の西側に色ガラスが多い。

### 「アカホヤ」からなにがわかるの？

地層の年代を決める目印となり、アカホヤ火山灰の上にある地層は、約7,300年より新しい地層、下にある地層は約7,300年より古い地層となります。  
西海ヶ谷の露頭から、アカホヤ火山灰が五劫層断層により変形していることがわかり、約7,300年前以降の新しい時代に断層が活動した証拠となります。

### 「アカホヤ」はキラキラ光るってほんとう？

アカホヤ火山灰は、電球が割れたようになったようなガラス質ですが、特殊した火山灰の上部が色黒いことと、ランプのガラスを「ホヤ」と呼ぶことが、合わせて、「アカホヤ」と言われています。九州と八甲のアカホヤでは、色やガラス質粒の大きさが異なります。

### ●西海ヶ谷露頭（アカホヤ）

西海ヶ谷の露頭では、断層運動によってアカホヤ火山灰層がはさんで砂れき層が露出しています。これは、約7,300年前以降に五劫層断層が活動したことを示す証拠であり、学術的にも貴重なものです。

西海ヶ谷露頭 断層・流砂大層火山灰の様子

露頭のスケッチ

※露頭一地面などが地層に露出している部分

## 砂防工事の工夫

### 経済的で環境にやさしい堰堤づくり

西海ヶ谷には、インセム工法でできた砂防堰堤があります。

インセム工法は、工事で発生した土砂とセメントを混ぜ合わせ、突き固めて出来た砂防堰堤です。インセム工法で造る砂防堰堤は、コンクリートで作る砂防堰堤より、環境発生土砂を受入れることから費用が安くなります。また、堰堤の材料のほとんどが土砂でできていることから、現地の風景になじみます。

#### ＜インセム工法／施工イメージ＞

- ①混合  
セメントと発生土砂を混ぜて均等に敷きます。
- ②敷出し（しきならし）  
混合したインセム材料を、滑り立て均等に敷きます。
- ③締め固め  
振動ローラーで締め固めます。
- ④完成

インセム工法の堰堤

インセム (INSEM) の意味とは・・・  
インセム (INSEM: In-situ Stabilized Excavation Materials) (開発者：(株)住友建設)

### 六甲の川物語

～ みんなで語り、伝えよう！住吉川物語 ～

【問い合わせ先】  
国土交通省六甲砂防事務所  
住所：〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町3-13-15  
電話：078-851-0635  
ホームページ：http://www.nokko.kkr.mlit.go.jp/  
＜六甲の川物語「科学」サブノート＞「断層マップ」がダウンロードできます

大雨のたびに土石流が暴れ下った表六甲の谷 いくつもの堰が作られ、知さん治水の工夫が積み重ねられ、今は緑に包まれた静かな谷になっている。子供の頃 表六甲の谷筋は 知らぬ谷筋や道に入るなどよく言われましたが、こんなに緑につつまれた谷になっているとは本当にびっくり。

でも 油断禁物。いつまた 牙をむくかもしれぬ暴れ川 今も治水・治山の戦いが続いている。



石畳道を楽しみながら、ゆっくり木々に包まれた坂を下ると林の向こうに突然小さな池の岸に出て、向こうは明かるい広い原に小川が流れ、木道が渡っているのがみえ、五助ダムに到着。

でも 広場に出ても高いダムは見えず、あちこちに樹木が茂る原。 だももっと下らぬと五助ダムでないのだろうか?と はっと気が付く。

ダム湖の中が土砂で埋まって、湿地になっているのだと やっと気が付く。

下流へこの湿地につけられた木道を少し歩くとダム堰堤の横に出た。 確かに歩いてきた原はダム湖の中だ。



2018.6.14. 五助ダム湖 湿地の一部  
林の中の坂道を下ると小さな池の横に出て、向こうは明るい後から考えるとこの池も五助ダムのダム湖の一部かもしれない



五助ダムのダム湖の一部? 奥に湿地を渡る木道が見えている



2017.6.14. 住吉谷 五助ダム湖 広い湿地の中 小川が流れ、木道を渡ってゆく



2017.6.14. 住吉谷 五助ダム湖内の広い湿地 15:41



2017.6.14. 住吉谷 五助ダム湖

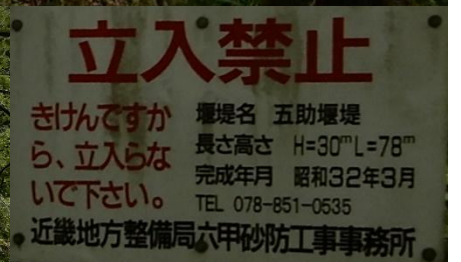


2017.6.14. 住吉谷 五助ダム堰堤



2017.6.14. 住吉谷 五助ダム 堰堤  
ダム堰堤の向こうに先ほど歩いてきた湿地がみえて はっと気が付く。  
もう 五助ダムは土砂でほとんど埋まっているのだと

五助ダム 名前だけしか記憶はない。  
柵がされ、堰堤には降りられないが、  
堰堤のすぐそばまで草原。でも堰堤  
の幅いっぱい氷が落ちている。  
なにか 住吉谷治水・治山の格闘の  
すごさが頭に浮かんだ。





2017.6.14. 住吉谷 五助ダム堰堤

ダムの正面 とうとう水が流れ落ち、両側を山で挟まれた湿地全体が五助ダム湖であるとわかった。  
もう数十年前訪れた記憶とは比べようもない変貌。ただただ、すごいなあ・・・と



Google earth 写真でみた五助ダム 湖はもう土砂でいっぱいだ

帰宅して google earth で 五助ダム周辺をながめて、状況がよく分かった。また、堰堤の横をくだったところにダムサイトの広場が整備されていて、正面からしゅきをあげて流れ落ちる五助堰堤がよく見えた。

また、このダムサイトの広場は 住吉道とならぶ六甲越の古道「石切り道」や打越山への分岐など数々のバリエーションルートで東六甲へ登る登り口。こんなに良く整備されているのも知りませんでした。

このちょっとおかげさ、ですが、逝ってしまった古い友人から五助ダム周辺の話は何度も聞きましたが、やっと五助ダムとの再会をはたせた。六甲学生時代からフィールドにし、土木の技術屋で山仲間でもあった友を思い出して ちょっと感傷的にもなって、しばらく五助ダムの水音を聞いていました。



2018.6.14. 住吉道 五助ダム周辺 石切り道、住吉道、打越山への3分岐 15:51



2017.6.14. 住吉谷 五助ダムサイト 15:47



2017.6.14. 住吉川の治水・治山の案内板 住吉谷 五助ダムサイトで 15:47

是非 歩いてみたかった住吉谷。

本庄堰堤・五助ダム そして道標に記された峠・山・地名は覚えているのですが、頭にあるイメージとは大きく乖離。緑に包まれて心地よい谷歩き。また、話でしか知らぬ阪神大水害を起こした住吉谷とそれを契機に一機に進んだ表六甲の治山・治水の歴史と六甲越の歴史の道。 いろんな思いも一緒に須磨では味わえぬ谷道に満足感いっぱい。

まだ、この五助ダム周辺は六甲の山腹なのですが、すぐ下からは高台に広がる住吉地区の住宅地。 ぶらぶら街を眺めながら、住吉台から住吉川沿い白鶴美術館前の坂道を下って阪急御影駅まで まだ長い街歩きが残っている。



2018.6.14. 住吉川沿いを下って 阪急御影駅へ 15:56  
二上橋を渡り中津の山の中腹。 標高200mから300mほどが長い坂道が続き



2018.6.14. 住吉台への遊歩道 ここはまだ六甲の山の中腹 標高200mから300m 阪神府では 六甲の山腹この辺りまで住宅地が広がっている ここからは住吉台の園地から白鶴美術館前へ遊歩道・住宅地を抜けてよく



2018.6.14. 住吉台の住宅地を抜け、やっと白鶴美術館前へ 14:21  
もう バスに乗れるのですが、今日はきつかり阪急御影まで、坂を下る。 まだ10分はかかるだろう

六甲高山植物園より六甲最高峰を経て 久しぶりに住吉谷を下る 2018. 6. 14.  
 3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



六甲高山植物園より六甲最高峰を経て 久しぶりに住吉谷を下る 2018. 6. 14.

1. ニッコウキスゲの咲く 六甲高山植物園
2. 六甲山上を車へ抜いて 六甲最高峰へ
3. 裏六甲有馬と表六甲を結ぶ六甲越の古道「住吉道」から住吉谷を下る



私の一番好きな六甲 武庫川から眺める東六甲の姿  
小さな時から、私の慣れ親しんだ景色でもある



梅雨の晴れ間 急に思い立ってかつてよく通った東六甲へ 六甲山上へは何度も上がるのですが、ここ10数年歩いたことがない東六甲。 興味深々で歩きました。

毎年この時期訪れる六甲高山植物園 ことしも多くの花に出会えて満足。  
そして、久しぶりに歩いた六甲山上walk・六甲最高峰 そしてそこから下った住吉川沿いの住吉道。興味深々 六甲からの大展望を楽しみながらのうれしい緑の森のハイキング。こんなによく整備され、静かでゆっくり 緑の中を歩けるのか……とびっくり。

須磨の西六甲からは見られない東六甲。  
六甲最高峰からは 眺めたかった阪神間の市街地から大阪湾までの大展望。  
そして故郷尼崎の街もくっきりと。  
住吉川の古道 住吉道 楽しみにしていた五助ダム周辺・そして住吉道 かつては荒れ果ててはげ山だった山中が本当に心地よい緑のハイキング道に。  
でも最初 御影から住吉道のぼろうか・・・と思いましたが、あの長い六甲山頂までの谷筋道。ちょっと恐れをなして下ることに。正解でした。やっぱり住吉道のアプローチの長さは記憶通りやっぱり長い。でも もうわかったのでどこかで挑戦。

次は もう一つ気にかかっていた東六甲の道 東おたふく山・奥池ハイクをやろう 東六甲の様子もだいぶわかったので 楽しめそう

見どころ満載の一日を思い浮かべながら ぶらぶら 住吉川沿いの道 阪急御影駅までの急坂を下りました。

2018.6.14.夕 心地よい疲れの中て Mutsu Nakanishi



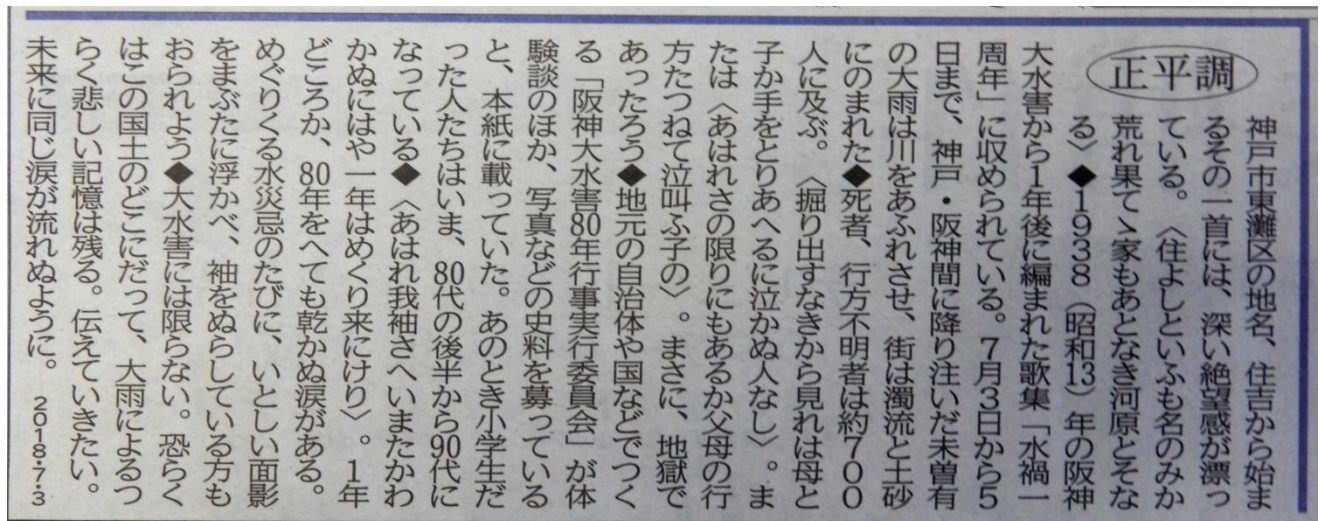
【 参 考 】

1. 六甲の川物語「住吉川物語」国土交通省 六甲砂防事務所

<https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/study/sumiyoshi/sum-b.pdf>



2. 神戸新聞コラム「正平調」 2018.7.3より 住吉谷・阪神大水害の記憶



【追伸】

7月5日-7日 兵庫県は記録的な大雨に見舞われ、大きな被害が出ています。  
住吉川流域でこんなに治水・治山工事が進められていても、まだ 収め切れていない。  
被災された皆様にお見舞い申し上げます。

特に近年の地球環境変化による異常気象のすごさはほとんど経験則が通用しない。  
遊歩道があり、美しい住吉川が、いったん荒れ狂うとものすごいことに。  
平時では想像もつかない姿。どうかそのすごさに驚愕するとともに、  
そんな局面に直面した時の身を守る術を  
それぞれ事前に 十分ご検討ください。

2018.7.7. Mutsu Nakanishi



住吉川周辺がこんな姿に 2018.7.5.